



平成 31 年 1 月 10 日

各 位

会 社 名 Shinwa Wise Holdings 株式会社  
代表者名 代表取締役社長 中川 健治  
( J A S D A Q ・ コード 2 4 3 7 )  
問合せ先 執行役員 経理部長 益戸 佳治  
電話番号 0 3 - 5 5 3 7 - 8 0 2 4  
( <http://www.shinwa-wise.com> )

平成 31 年 5 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異  
及び平成 31 年 5 月期通期連結業績予想値の修正に関するお知らせ

平成 30 年 7 月 12 日に公表しました平成 31 年 5 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 30 年 6 月 1 日～平成 30 年 11 月 30 日）の連結業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、平成 31 年 5 月期の通期連結業績予想値を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値の差異について

平成 31 年 5 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値との差異  
（平成 30 年 6 月 1 日～平成 30 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,800	30	21	14	円 銭 2.19
実 績 値 (B)	1,962	50	31	△10	△1.57
増 減 額 (B - A)	162	20	10	△24	
増 減 率 (%)	9.1	66.9	49.8	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 5 月期第 2 四半期)	1,210	△38	△65	△73	△11.76

< 差異の理由 >

前回発表予想との比較では、売上高はオークション関連事業で 427 百万円の増加、エネルギー関連事業及びその他の事業で 281 百万円の減少、セグメント利益はオークション関連事業で 29 百万円の増加、エネルギー関連事業及びその他の事業で 8 百万円の減少、経常利益も前回発表予想の 21 百万円の経常利益に対して、31 百万円の経常利益となりました。

前期大幅な赤字業績であった PKS 事業（日本国内のバイオマス発電燃料としてのマレーシアのパーム椰子殻販売事業）は、収益構造の見直しに取り組んでいるところであり、改善の兆しが見られるものの、当第 2 四半期連結累計期間は依然として赤字業績であり、連結ベースでは 31 百万円の経常利益に対して法人税等に 40 百万円を計上することとなりました。その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は 10 百万円の損失となりました。

## 2. 通期の連結業績予想値の修正について

平成 31 年 5 月期通期連結業績予想値  
(平成 30 年 6 月 1 日～平成 31 年 5 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	3,800	74	60	50	円 銭 7.87
今回修正予想 (B)	3,000	74	60	50	7.66
増減額 (B - A)	△800	0	0	0	
増減率 (%)	△21.1	0.0	0.0	0.0	
(ご参考) 前期連結実績 (平成 30 年 5 月期)	2,781	△181	△265	△257	△40.93

### <修正の理由>

エネルギー関連事業では、50kW 級の低圧型太陽光発電施設販売事業において 52 基の販売を通期目標に掲げておりましたが、利回り商品としての優良な発電施設に対する購入需要は高いものの、経済産業省による電力の買取価格は継続的に引き下げられており、収益目線で投資対象となる新たな案件の確保がかなり難しくなっております。加えて一部電力会社の出力抑制の影響もあり、購入希望者のニーズに合う案件の仕入が思うように進まない状況にあるため、当第 2 四半期連結累計期間までに 15 基の販売にとどまっており、第 3 四半期以降も大きな営業改善は見込める状況にはありません。従いまして、当初の販売目標数を大幅に減らし、当連結会計年度中の販売は 20 基程度になる見通しであります。これにより、売上高は大きく落ち込むものの、売上高に比して利益率がさほど高くない事業であるため、営業利益に関しては売上高ほどの影響は出ないものと見込んでおります。

またマレーシアにおける PKS 事業においては収益構造の見直しに取り組んでおり、結果として赤字要因の解消に向けて着実に効果は出ているものの、第 3 四半期以降も劇的な改善までは見込むことができません。

これらを主たる要因として、当該セグメントの売上高は当初予想値の 1,676 百万円に対して 900 百万円、セグメント利益は当初予想値の 14 百万円に対して△30 百万円となる見込みであります。

その他の事業分野では、米国テキサス州中古不動産物件紹介事業において 17 件の販売を通期目標に掲げておりましたが、金融機関による購入者向け融資制度の導入後は当該制度利用希望者が多く、実際に融資が実行されるまでに想定を超えた長い時間を要しております。また、昨年 12 月に閣議決定した平成 30 年税制改正大綱の動向にも事前に注目が集まり、様子見ムードが広がった結果、現状 8 件の成約にとどまっております。今回の税制改正大綱では、海外中古不動産に係る所得税法上の減価償却費についての見直しはありませんでしたが、次年度以降も引き続き税制改正の動向に注意を払っていかねばならず、市場も様子見ムードが継続するものとして、当連結会計年度中の成約数は 10 件程度にとどまる見通しであります。これにより、売上高は大きく落ち込むものの、エネルギー関連事業における低圧型太陽光発電施設販売事業同様、営業利益に関しては売上高ほどの影響は出ないものと見込んでおります。また、ミャンマー連邦共和国におけるマイクロファイナンス事業は、当初赤字業績を予想していたところ、黒字業績を見込めるようになりました。

これらを主たる要因として、その他の事業分野の売上高は当初予想値の143百万円に対して70百万円、セグメント利益は当初予想値の30百万円に対して28百万円となる見込みであります。

他方、オークション関連事業では、当第2四半期連結累計期間に、オークション会場リニューアル及びShinwa Priveの画廊スペース新設記念特別オークションとして、「Y氏コレクション - ART JUNGLE」を開催したところ、取扱高は7億円に迫り、落札率も92.9%となるなど高い実績を上げました。また、当連結会計年度から、本格的に手がけている画廊事業では大型案件の成約があったため、取扱高、売上高が大幅に増加いたしました。また、新たにShinwa Priveの画廊スペースを設け、お客様のニーズにきめ細やかに対応できる体制の整備が売り上げの増加に結びついております。その他、高額ダイヤモンド販売事業は、引き続き安定した売上高で推移しております。

これらを主たる要因として、当該セグメントの売上高は当初予想値の1,981百万円に対して2,030百万円、セグメント利益は当初予想値の142百万円に対して182百万円となる見込みであります。

営業利益は、セグメントに配分されない全社費用106百万円を加味して、当初予想の74百万円となる見込みであります。

以上のように、これまで収益の柱のひとつとして、当社グループを支えてきた低圧型太陽光発電施設販売事業が少しずつ収束に向かい、また新たな収益の柱として注力してきた米国テキサス州中古不動産物件紹介事業は、税制改正の影響を受けて思うような成果を上げておりませんが、主力のオークション関連事業は好調を保っております。

さらに、期初からグループ全体の構造改革に取り組んでおり、中でも子会社の販管費の抜本的な見直しは、固定費の削減に大きく寄与しておりますので、この効果により各セグメント費用及びセグメントに分配されない全社費用を含めた販売費及び一般管理費合計は、当初予想値から25百万円の減少を見込んでおります。従いまして、売上高は前回公表値よりも減少するものの、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前回公表値の達成を見込めるため、そのまま据え置くものとします。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上